
平成22年度事業報告 及び歳入歳出決算の概要

血液事業特別会計

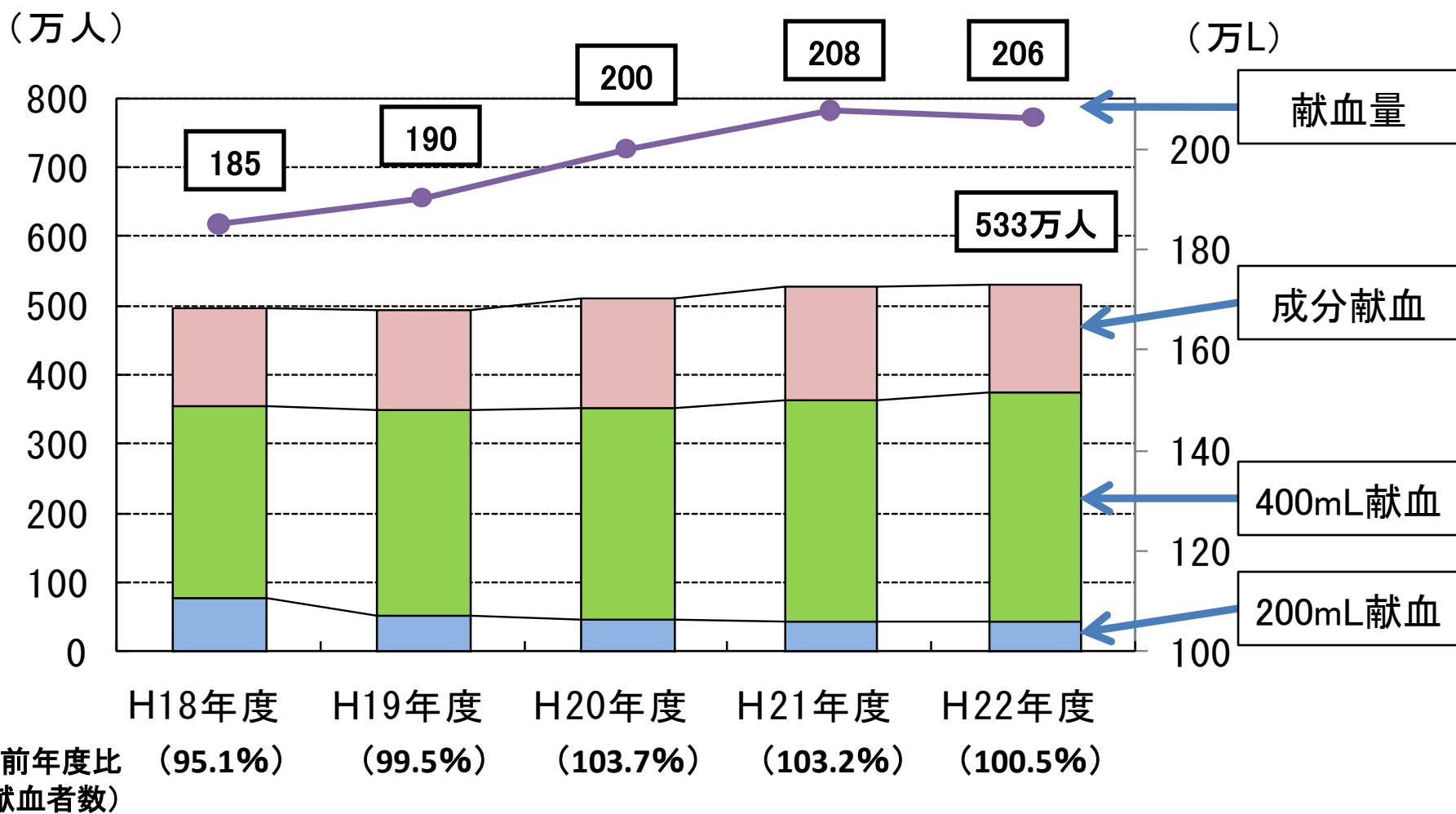


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



1. 事業報告

献血者数の確保



献血者確保対策

(1) 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

① 若年層を対象とした対策

- ・雑誌やインターネット等、様々な手段を用いた効果的な広報活動の実施
- ・学校へ出向いての献血セミナーや血液センター等での体験学習の実施
- ・高校生、大学生を対象とした献血推進の活動



献血模擬体験の様子

② 年齢層に応じた献血推進対策

- 20歳代後半～30歳代の女性
 - ・キッズコーナーの設置など環境整備
- 40歳～50歳代を対象とした対策
 - ・正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発活動
- 60歳以上を対象とした対策
 - ・献血可能年齢の引上げ
 - ・献血ボランティアの募集



企業献血の様子

③ 企業等における献血の推進対策

④ 複数回献血協力者の確保

⑤ 献血推進キャンペーン等の実施



「20歳の献血キャンペーン」
(1月～2月)



献血推進映画
「八月の二重奏」(12月)



「LOVE in Action
プロジェクト」(通年)

(2) 安心して献血ができる環境の整備

① 献血ルームや献血バスのイメージアップ

② 低比重者などへの対応

- ・健康相談の実施

③ 初回献血者への対応

- ・採血副作用防止のため
献血の手順や献血後の
過ごし方等のDVD作成



献血ルームオリーブ(香川)



けんけつちゃんラッピングバス

安全対策

(1) 輸血用血液製剤への感染因子低減化技術の導入に向けた検討

厚生労働省薬事・食品衛生審議会血液事業部会等の審議結果に基づき、薬剤を添加して、紫外線照射する輸血用血液製剤への感染症因子低減化技術の導入準備を進めました。

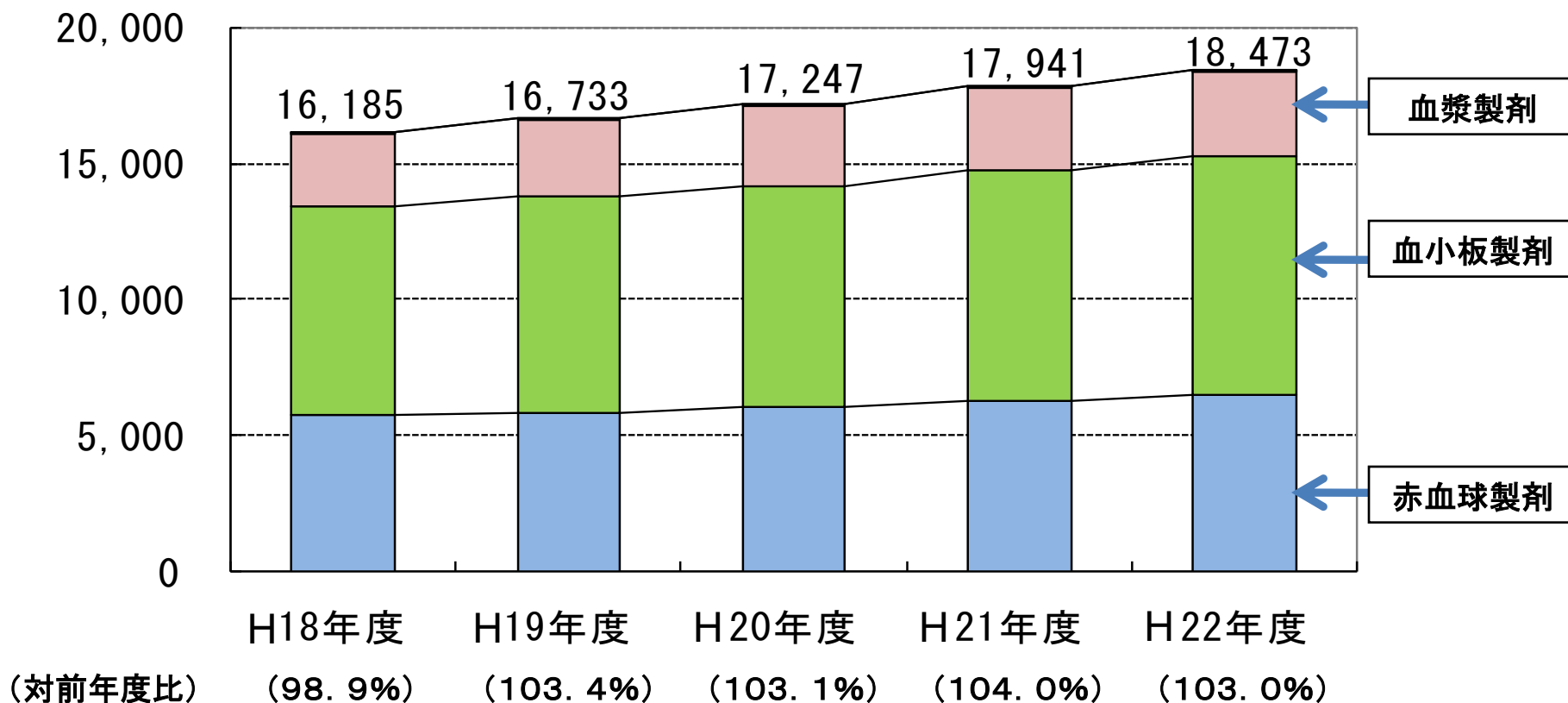
(2) 輸血用関連急性肺障害(TRALI)対策の検討

TRALIは、原因の一つに抗白血球抗体があり、防止対策として7カ所の基幹センターにおいて、男性献血者からの400mL献血由来新鮮凍結血漿を優先的に製造する体制を整備しました。

血液製剤の供給・販売実績

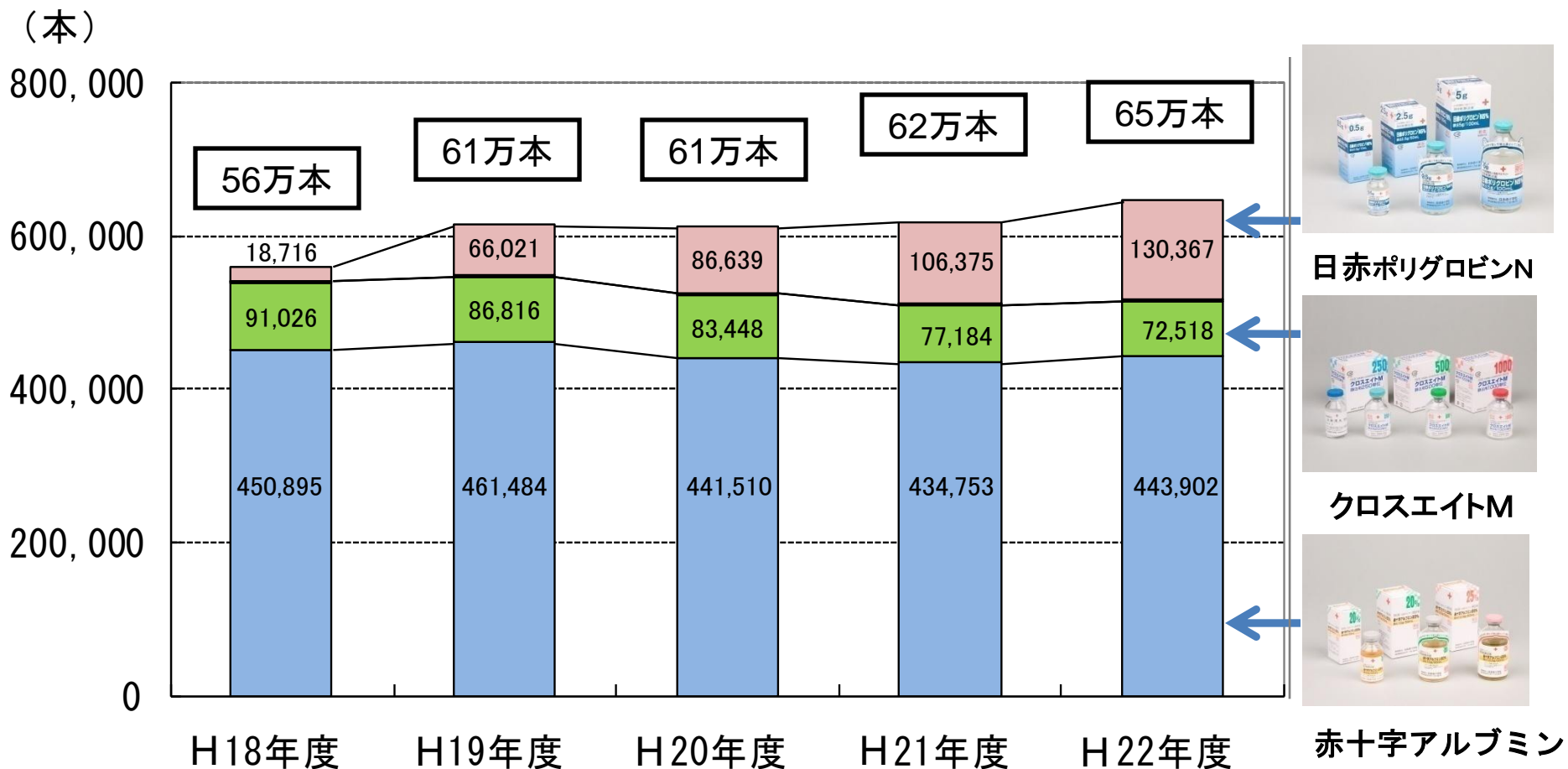
(1) 輸血用血液製剤の供給実績

200mL換算
 (千単位)



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

(2) 血漿分画製剤の販売実績



※抗HBs人免疫グロブリン「日赤」は販売量が少量のため、グラフ上に表示されません。

※日赤ポリグロビンNは、2.5g/50mL換算
 クロスエイトMは、1,000単位換算
 赤十字アルブミンは、25%50mL換算

血漿分画製剤の国内自給率
(平成22年)

アルブミン製剤 58.7%
 グロブリン製剤 95.1%

広域事業運営体制の構築

(1) 業務集約化の推進

- ・検査業務: 全国10施設に集約
 (平成20年8月に10施設に集約)
- ・製剤業務: 平成25年度末を目途に全国11施設程度に集約
 (平成23年3月現在: 27施設)

(2) 広域的な事業運営体制に向けて

① 広域需給管理

ブロック単位による広域需給管理体制の整備

② 製造体制

ブロック単位による需給管理に基づいた一元的な製造体制の構築

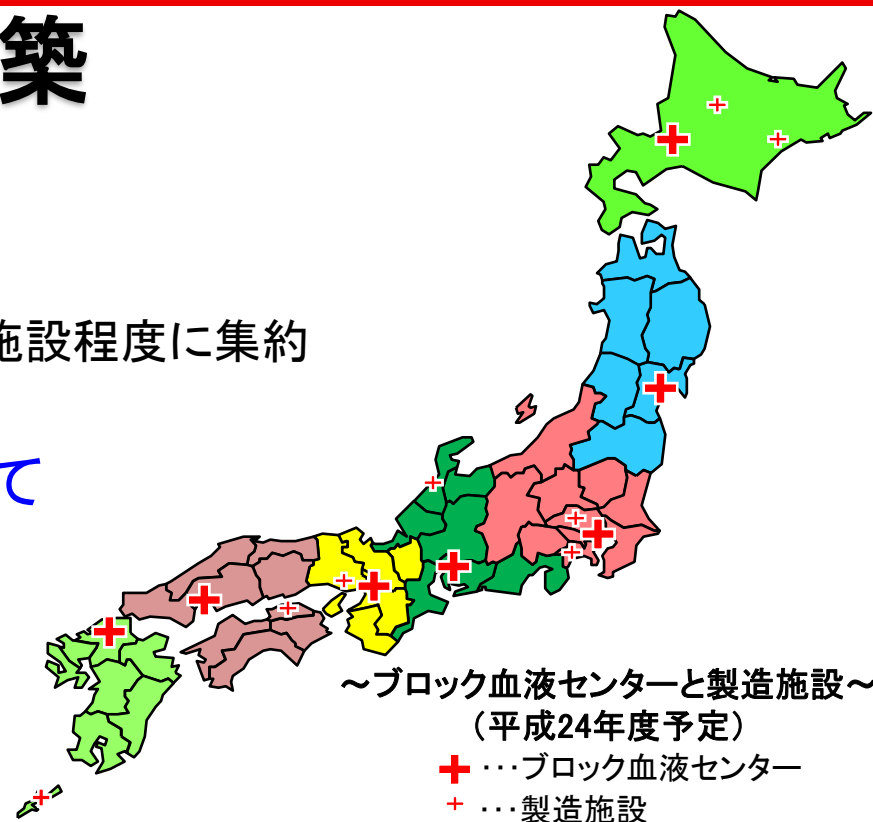
③ 財政一元化

全国一元的な財政制度の導入

(3) 施設の整備

① 製造施設の整備

② 既存の血液センターの施設改修



近畿ブロック血液センター(仮称)

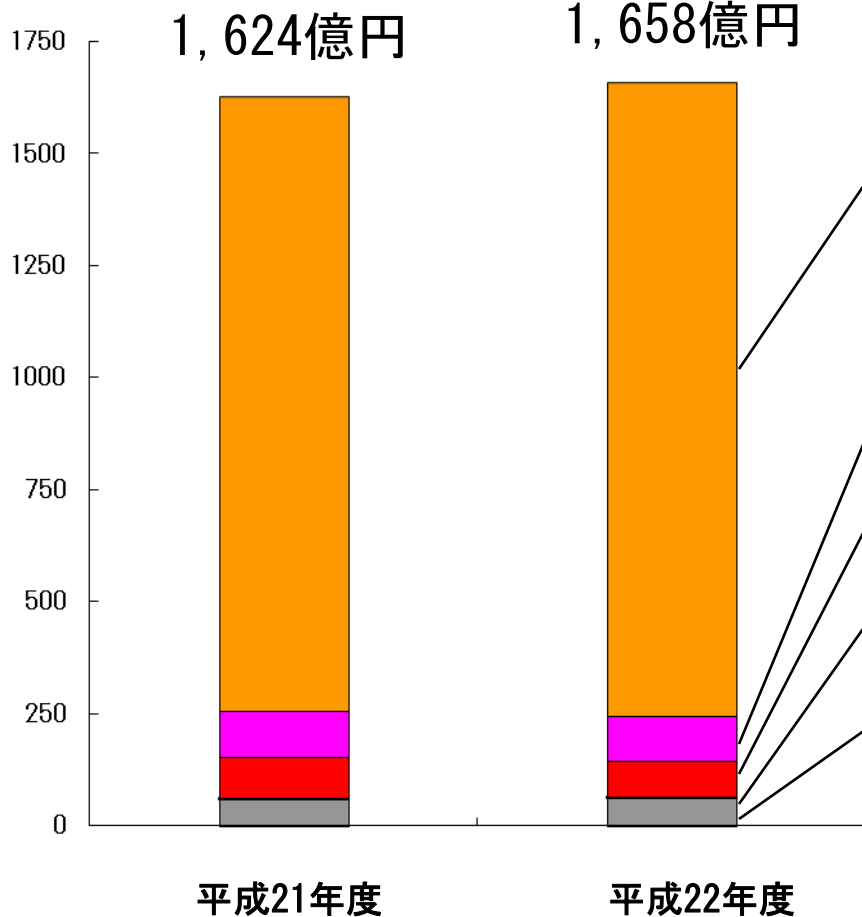


中四国ブロック血液センター(仮称)

2. 歳入歳出決算の概要

血液事業特別会計 収益的収入のあらまし

(億円)



血液製剤供給収入	42億円
[1,370億円→1,412億円]	3.1%

分画製剤供給収入	△1億円
[102億円→101億円]	△1.5%

原料血液供給収入	△10億円
[90億円→80億円]	△10.9%

その他事業収入	1億円
[1億円→2億円]	17.5%

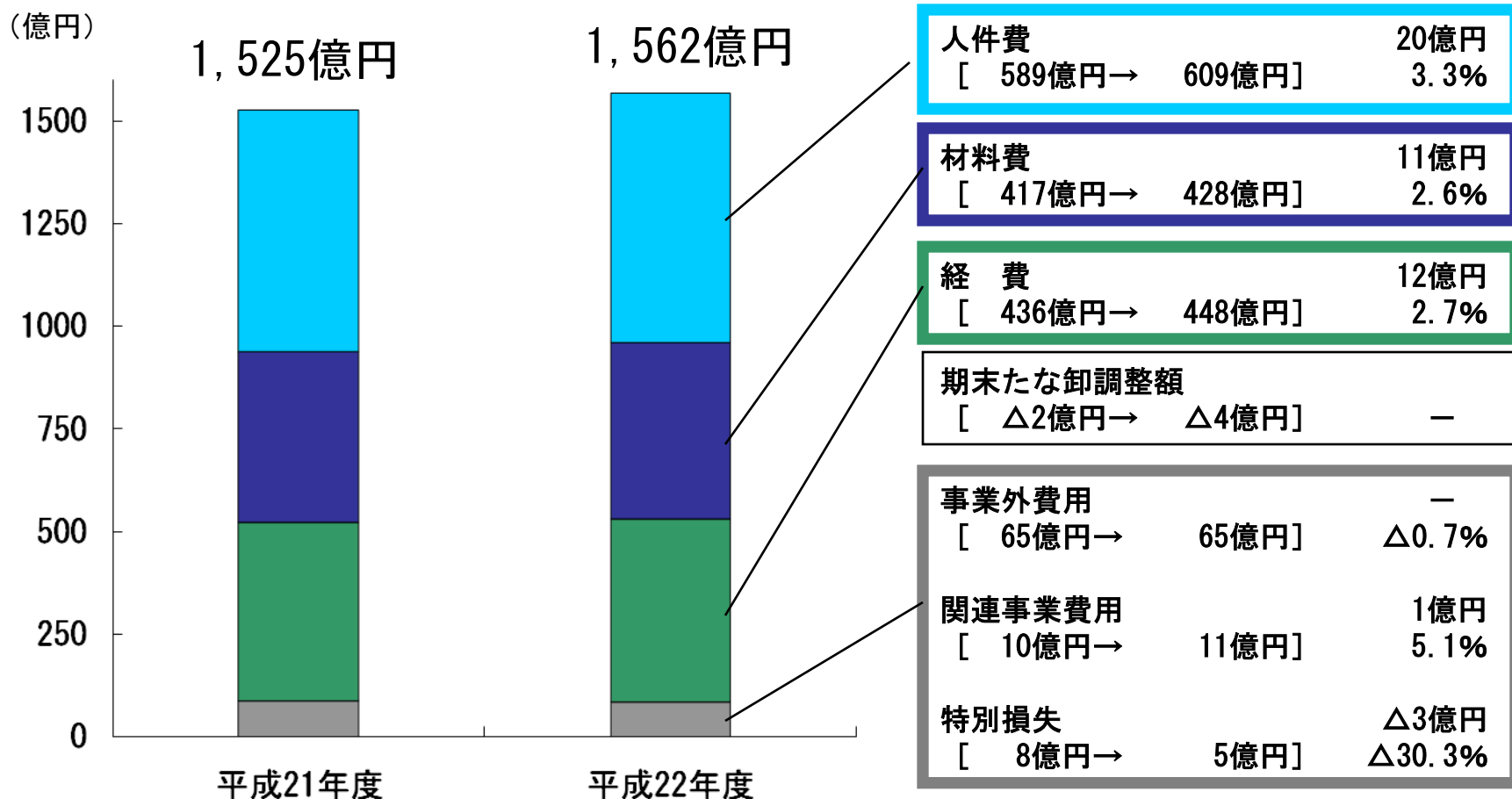
事業外収入	2億円
[43億円→45億円]	6.2%

関連事業収入	—
[10億円→10億円]	1.8%

特別収入	△1億円
[6億円→5億円]	△11.0%

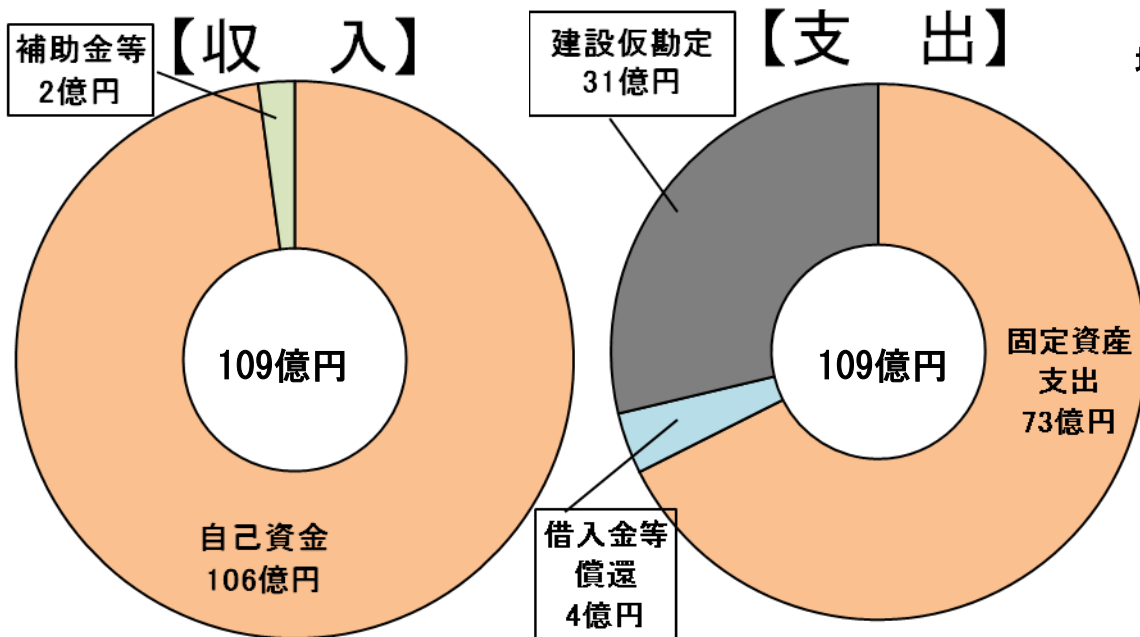
	平成21年度	平成22年度	増減率
収益的収入合計	1,624億円	→ 1,658億円	2.0%

血液事業特別会計 収益的支出のあらまし



	平成21年度		平成22年度	増減率
収益的支出合計	1,525億円	→	1,562億円	2.4%
収支差引額	99億円	→	95億円	—
黒字施設	40施設	→	43施設	
赤字施設	10施設	→	7施設	

血液事業特別会計 資本的収支のあらまし



埼玉県赤十字血液センター 大宮献血ルーム ウェスト



大阪府赤十字血液センター まいどなんば献血ルーム



※資本的収支の差額は31億円で、建設仮勘定として平成23年度に繰り越すものであること。

固定資産支出…施設整備の状況

内 容	金 額
・ブロック血液センター用地の取得 ・施設整備等（原料血漿の貯留保管施設、検体保管施設 他）	50億円
・検査装置などの機器整備	12億円
・献血運搬車、移動献血車などの車両整備	8億円
・その他有形・無形固定資産（ソフトウェア関係等）	1億円